

第8章 施設・設備の最適化

施設については、令和2年度から令和3年度までに大規模な空調設備更新及び病棟リニューアル工事を実施しましたが、令和5年9月1日時点では大規模修繕の計画はありません。今後も計画的な更新スケジュールを作成し、長寿命化を図っていく必要があります。

また、医療機器等については、通常の耐用年数を超えて使用していますが、必要性、費用対効果を勘案し更新を行う必要があります。

1 E S C O事業の導入

昨今の急激な電気代及びガス代の高騰は、病院経営において財政上大きな負担となっています。また、熱源を供給する設備機器は老朽化が顕著で更新が必要です。そのような状況を改善するため、民間の資金とノウハウを活用し、初期投資をすることなく省エネルギー化、二酸化炭素削減及び維持管理費の低減を図ることができるE S C O事業を導入します。契約期間は令和5年度から令和19年度までとし、令和5年度から令和7年度にかけて改修工事を実施します。これにより設備の長寿命化、投資計画の平準化及び光熱水費の抑制を図っていきます。

2 インフラ長寿命化計画

当院建築後、本館は40年、健診棟、新館においても34年、25年とそれぞれ経過し、建物(鉄筋コンクリート)以外の施設・設備は耐用年数を超えているものがあります。対象物件については、順次更新を進めていますが、竣工当初から使用し老朽化が進んでいる施設・設備があります。インフラの状態は、経年劣化や疲労等によって時時刻刻と変化することから、定期点検サイクル等を考慮しながら計画的に改修や更新を進め長寿命化を図ることが必要です。

また、構成市の富士市立中央病院が建て替えの計画をしていることから、当院の建て替えはそれ以降となることが想定されます。当院の建て替えは未定であります。引き続き長寿命化を進める必要があります。

平成29年3月に「共立蒲原総合病院インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定しましたが、今後、これをもとに個別施設毎の長寿命化計画(個別施設計画)を策定していきます。

3 医療機器整備

地域住民が求める医療ニーズに沿った良質な医療を提供するため、費用対効果を念頭に置きながら、新たな医療機器の導入及び老朽化した医療機器の更新を行います。医療機器の購入は、競争原理をより働かせるため複数メーカーから選択することを各部署と検討し、購入費用の削減を図ります。

別表【主な施設設備及び医療機器の更新、導入及び改修予定】

| 年度 | 施設・設備関係 | 医療機器関係 |
|-------|--------------------------|-------------------------------------|
| 令和6年度 | ・新館外壁改修工事 | ・一般医療機器 ・骨密度測定装置 ・電子カルテシステム更新 |
| 令和7年度 | ・本館建物屋根改修防水工事 | ・一般医療機器 |
| 令和8年度 | ・本館1階内装改修工事 | ・一般医療機器 |
| 令和9年度 | ・浄化槽設備改修工事 ・透析浄化槽更新工事 | ・一般医療機器 ・一般撮影システム |

4 デジタル化への対応

(1) 電子カルテシステムの更新

現在、当院は電子カルテシステムを中心とした総合医療情報システムを導入し、システム連携による診療や会計効率の向上により、待ち時間の短縮等に寄与しています。

令和6年度には、現在活用している電子カルテシステムの更新を行うとともに、国の動向も注視しつつ遠隔診療・オンライン診療等の整備を検討し、医療情報の連携や病院経営の効率化を進めていきます。

(2) オンライン資格確認への対応

オンライン資格確認（マイナンバーカードの保険証利用等）に対応し、利用者の利便性向上に努めています。

ア オンライン資格確認に対応することにより、限度額適用認定証等がなくても、窓口での限度額以上の一時的支払いが不要となり、利用者の利便性が向上します。

イ オンライン資格確認を通じて利用者情報（特定健診情報、薬剤情報、医療費通知情報）を有効活用し、より適切な医療を提供できます。

ウ 医事システムへの資格情報の入力作業が軽減され誤記リスクが減少します。

エ オンラインで即時の資格確認が行えることにより、レセプトの返戻を回避でき、利用者への確認事務が減少します。また、未収金の減少につながります。

(3) 院内システムの運営

病院情報システム委員会で院内システムの諸課題の改善に取り組み、効率的な運営ができるよう努めています。

(4) 情報セキュリティ対策

厚生労働省の医療情報システムの安全管理に関するガイドライン等に則った、情報セキュリティ対策を講じていきます。